

平成27年6月24日

文学部長
法学部長
経済学部長 殿
情報文化部長
教育学部長

理事(国際担当)
渡辺 芳 人

国際シンポジウム「日中大学生討論会」参加候補者の推薦について（依頼）

このことについて、標記シンポジウムを主催する名古屋外国語大学より、学生参加者の推薦依頼がありました。

ついては、貴部局において候補者としてふさわしい者がいる場合は、下記により事業推進課あて推薦願います。

記

1. 推薦対象者

貴部局所属の日本人学部学生で、討論テーマ「日中の若者はどう思うか」について、日中の学生間で活発な討論を行うことが期待できる者。討論は日本語で行われるが、中国人参加者と個別に懇談する可能性もあるため、中国語能力が高い者が望ましい。

2. 提出書類

推薦書（別紙様式）

3. 選考方法

提出された推薦書に基づき、書類選考・面接を行う。最終候補者1名を当該シンポジウム主催者へ推薦する。推薦者及び被推薦者に対して、選考結果を通知する。なお、面接はおおむね7月14日以降の週を予定しており、選考結果通知に際して具体の日時等を伝達する予定。

4. シンポジウム開催要項

別添のとおり

5. 提出期限 平成27年7月10日（金）15時まで

6. 提出先 教育推進部 事業推進課（担当：書上）

内線：6889（東山）

Eメール：kakiage.masanori@adm.nagoya-u.ac.jp

国際シンポジウム「日中大学生討論会」開催要項

1. 趣 旨

日本と中国の両国は悠久の交流を持つ関係にあり、その善隣友好関係を一層促進していくことが重要であるが、最近は両国間の交流に障害となる様々な深刻な課題が浮上している。このような両国をめぐる情勢を踏まえ、米中接近と日中国交回復を促進したピンポン外交発祥の地である名古屋において、次代を担う両国の若者が一堂に会し、率直に両国関係の諸課題に関する意見を述べ合い、お互いの一致点を見出し、「日中大学生名古屋宣言」の公表を目指すものとする。

2. 開 催（予定）

- | | |
|-----|---|
| 主 催 | 名古屋外国語大学・名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター
日中友好 99 人委員会 |
| 共 催 | 中国国際友人研究会
日中文化協会
愛知県日中友好協会・三重県日中友好協会
東海日中関係学会
中日新聞社
東海テレビ |
| 後 援 | 外務省・文部科学省
中国大使館・中国名古屋総領事館
愛知県・名古屋市
岐阜県日中友好協会
日本日中関係学会
一般社団法人東海日中貿易センター |
| 協 賛 | 一般社団法人国際ビジネス交流協会 |

3. 期 日

2015年（平成27年）10月17日（土）

4. 会 場

名 称 ホテル名古屋ガーデンパレス
所在地 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目 11-13
電 話 052-957-1022(代)

5. 大会テーマ

「日中関係の未来を共創する～若者の視点から～」

6. プログラム

- | | |
|----------|---|
| (1) 開 会 | 主催者・来賓の挨拶 |
| (2) 基調講演 | 「アジアと世界において日中関係はどうあるべきか」（仮題）50分
丹羽宇一郎 前中華人民共和国駐箚特命全権大使 |
| (3) 論点報告 | 「日中関係の課題と提案」（具体的な課題と方策の提示）60分 |

- 日中双方（主催・共催者から）各 1 名・各 30 分
- (4) 学生討論 「日中の若者はどう思うか」 120 分～150 分（含休憩）
コーディネーター 日中双方有識者 各 1 名
学生 日中双方各 4 名
東京外国語大学、早稲田大学、名古屋大学、名古屋外国語大学
北京外国語大学、天津外国語大学、復旦大学、同済大学
- ※ 小テーマ 4～5 項目 各 20～30 分
例；相手国印象、サブカルチャー、歴史の見方、環境問題、若者交流など
- (5) 日中大学生名古屋宣言

7. 参加者

主催・共催・後援の大学・団体、学生討論会参加大学その他とする。
参加人数は最大 240 名とする。

8. その他

- (1) 使用言語は、日本語及び中国語の 2 か国語とし、同時通訳を行うものとする。ただし、大学生の討論は日本語で行う。
- (2) 前日には、日中の学生たちは、愛知県体育館に設置されたピンポン外交の記念モニュメント（縦 3 m、横 7 m の陶板で、日中 2 人の書道家による「平和」「友好」「愛」「夢」の文字を揮毫）を見学する。
- (3) 国際シンポジウム「日中大学生討論会」の終了後は、日中関係者による交流会を開催する。

名古屋外国語大学日中大学生討論会実行委員会

顧問	亀山 郁夫	学 長
委員長	川村 範行	特任教授
副委員長	中井 政喜	外国語学部中国語学科長
委 員	兪 暁軍	外国語学部中国語学科教授
委 員	林 慶雲	現代国際学部国際ビジネス学科教授
委 員	横山 陽二	現代国際学部 国際教養学科准教授

(事務局)

総 括	高橋 誠	大学事務局長
総括補佐	後藤 隆文	大学事務局次長
総 務	児玉 通夫	大学事務局庶務課長
スタッフ	鈴木 瑠美	外国語学部中国語学科助手
	川松 孝美	大学事務局庶務課

国際シンポジウム「日中大学生討論会」開催団体

主 催

名古屋外国語大学

学 長 亀山 郁夫

所在地 愛知県日進市岩崎町竹の山 5 7 番地

名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

センター長 亀山 郁夫

日中友好 99 人委員会

共同代表 依田 憲家 早稲田大学名誉教授

秋岡 ^{いえしげ}家栄 元朝日新聞北京支局長

団体概要 1990 年代、秋岡氏の招集の下で独立した友好団体として設立された。
大学生から既に退職した年配者を含む各界人士が会員。

共 催

中国国際友人研究会

会 長 馬 燦栄 元外務大臣助理・元駐ドイツ大使

団体概要 1991 年 3 月北京に設立。外国の友人の研究と国際友好交流に携わる
民間団体（中国の革命・建設事業に重要な貢献をした外国の友人を
研究、紹介し、より多くの外国の友人を得て、中国人民と世界人民
の相互理解と友情を促進すること）。

一般社団法人日中文化協会

会 長 梅原 猛 国際日本文化研究センター初代所長

団体概要 2000 年 4 月設立。日中両国の文化・産業の紹介と情報の提供に寄与
し、両国間の文化交流と経済活動の支援を通じて人的な交流を深め、
民間レベルでの相互理解の促進と有効の増進を図る。

特定非営利活動法人愛知県日中友好協会

会 長 後藤 淳 学校法人名古屋電気学園理事長

団体概要 公益社団法人日本中国友好協会（会長 加藤紘一）の地方組織とし
て 1954 年設立。

特定非営利活動法人三重県日中友好協会

会 長 舟橋 裕幸 三重県議会議員

団体概要 日中両国民の相互理解と友好交流の促進を目的に 1951 年設立。
正会員 188 名、賛助会員（含法人）42 名（2013.8.1 現在）

東海日中関係学会

会 長 川村 範行 名古屋外国語大学教授

団体概要 1992 年発足の日本日中関係学会（会長：宮本雄二）の三つの支部の
一つ。

中日新聞社
社 長 小出 宣昭

東海テレビ
社 長 内田 優

後 援
外務省

文部科学省

中国大使館

中国名古屋総領事館

愛知県

名古屋市

岐阜県日中友好協会

会 長 杉山 幹夫 岐阜新聞 名誉会長・岐阜放送 会長
団体概要 日本中国友好協会（現公益社団法人日本中国友好協会）岐阜支部として 1954 年発足。

日本日中関係学会

会 長 宮本 雄二 元在中国特命全権大使
団体概要 1992 年発足。21 世紀の日中関係を考えるオープンフォーラム。会員約 350 名。本部は東京で、関東支部（関東日中関係学会）、東海支部（東海日中関係学会）、関西支部（関西日中関係学会）の三つの支部がある。会員は学者、ビジネス、マスコミを中心に、公務員、学生、一般市民など多岐にわたっている。

一般社団法人東海日中貿易センター

会 長 深谷 紘一 株式会社デンソー相談役
団体概要 東海地方と中国との貿易を促進するため、友好と平等互惠の原則に則り、1955 年に日本国際貿易促進協会東海総局として設立。1985 年に東海日中貿易センターに改称。

協 賛

一般社団法人国際ビジネス交流協会

理 事 長 千葉 富生 愛知電設株式会社代表取締役
団体概要 2012 年名古屋市に設立。中国との関係強化、国家間の相互理解と友好関係を構築し、ビジネスを通して中国始め世界の平和と安定に貢献。

(別紙様式)

平成 年 月 日

国際シンポジウム「日中大学生討論会」参加候補者
推薦書

推薦者（所属・職・氏名）

国際シンポジウム「日中大学生討論会」参加候補者について、下記の者を推薦します。

記

所 属	学 年	氏 名

(推薦理由)